

会報



◇史学会総会

第七回奈良大学史学会総会は、五月二十七日(土)一〇五教室において開かれ、一九八八年度の事業、会計、会計監査報告が行われ、次いで一九八九年度の役員人事案、年間事業計画案とそれに伴う予算案が提案され、それぞれ原案どおり承認された。

一九八九年度の役員は次のとおり。

▽会長 堀内一徳

▽副会長 水野柳太郎

▽教員委員 (監事) 鎌田道隆 松山宏

(編集) 守山記生

(庶務・会計) 青木芳夫

(庶務・雑誌交換) 森田憲司

▽学生委員

蒲池清士(代表) 岡本和美(副代表) 小磯郁子、近藤

順、津田真希、豊浜勇治、長谷川清、北川裕紀子、国分明

子、塩田才恵子、柴垣百合、穴山雄三、井上尚美、小川彰基、国富美貴子、長尾芳子、中野一平、宮本万紀子、村田佳壽子、足羽幸宏、澤田潤、白岩修、竹内真弓、宮越姿(以上総務) 中堀夏樹、橋本裕史、元安今日子、阿座上謙二、武平竜一、米田武弘(以上広報兼編集) 今井睦美、木村和代、森田美和(以上書記兼会計)

◇春季講演会

五月二十七日(土)、史学会総会にひき続き、例年の通り、奈良大学史学科・史学会共催による特別講義が、左記のように行われた。

大阪市史編纂所所長 藤本 篤氏

「地方史編纂と歴史研究」

大阪府立大学教授 杉本憲司氏

「東アジアにおける古代国家の成立」

◇現地見学会

今年度の春期現地見学会は、東大寺散策であった。

本学客員教授の堀池先生、また水野教授に興味深いお話をして頂き、大仏殿では大仏の台座に上り、蓮弁についての説明も良かった。

和やかな雰囲気の中、見学者一同からの質問も盛んに飛

び出すという、大変有意義な見学会であったと思う。

今後もこの現地見学会を、歴史を直接肌と感じとってもらえるものとしていきたい。

◇「青垣祭」不参加報告

史学会委員会は、今年度、青垣祭への不参加を決定した。研究活動発表の場を限定せず、「定期講習会」やその他の年間行事にも今まで以上に力を入れ頑張って行こうと思う次第である。

◇定期講習会

青垣祭への参加を中止し、代わりに企画として定期講習会を行った。概容としては史学科にふさわしい内容をもったビデオ（映画・ドキュメンタリー等）を上映することにした。第一回目として十月二十一日に「孫文」を上映したのを皮切りに、年度内にはもう一回行う予定である。

◇卒論中間報告会

十一月十八日、二十五日の二週にわたって、二〇三教室に於て卒論中間報告会が行われた。今年度で六回目を迎え、年ごとに多くの学生が集まり、熱心に報告を聴き入っていた。

今年度の報告者と論題は、次のとおりである。

○十一月十八日

宇佐美勝「唐代後期の宦官について」

藤尾和美「江戸時代における都市問題としての塵芥」

古谷剛洋「叙任権闘争について」

西村圭吾「豊臣秀吉の京都再建―お土居について―」

中 史人「日本産業革命期の地域社会における特質と問

題点―三重県四日市とその関連地域を中心として―

○十一月二十五日

山田友香子「第一次大戦期の中国」

岡本聡美「インカ社会の自然と生活」

北條朝彦「造東大寺司の成立過程」

今藤達徳「初期教会史―彼らに力を与えたものは何か―」

◇「史学会会報」等の発行

史学会行事の案内など、史学会の活動の普及を目的とする「史学会会報」であるが、本年度は予定通り第九・十号の発行の他に新入生を対象とした号外を発行するなど、充実した活動を行った。

また、例年にひきつづき、小冊子「歴史学への扉」を発

行。一年次生を対象とした参考図書で紹介で、教員と学生委員が共同執筆し、その他に折り込み付録として一年次生を対象とした各講読紹介もつけくわえられ、より充実した内容となった。

◇第四回中国研修旅行

一九八九年春の史学科中国研修旅行は、菅野正・明石岩雄・森田憲司の三名の教員の引率により、次の日程で行われた。

- 三月 六日 大阪発上海を経て蘇州へ 蘇州泊
- 三月 七日 蘇州市内見学（盤門、文廟、蘇州博物館、北寺塔、拙政園）の後、夜行列車で曲阜へ
- 三月 八日 曲阜市内見学（孔子廟、顔廟、周公廟、魯國故城、少昊陵、孔林）曲阜泊
- 三月 九日 午前、鄒県（孟子廟、孟府、鉄山摩崖、九龍山漢墓）、午後、孔府 曲阜泊
- 三月一〇日 嘉祥県の武氏祠、濟寧市の太白楼、鉄塔、漢碑群を見学の後、濟南市へ 濟南泊
- 三月一一日 千仏山、黄河、靈巖寺 濟南泊
- 三月一二日 柳埠（四門塔、神通寺）、大明湖、山東省博物館、夜行列車で北京へ

三月一三日 北京（天壇、王府井、故宮） 北京泊

一四日 北京（A班 万里の長城・十三陵、B班 都博物館・古観象台・都一處・琉璃廠・人民大会堂）北京泊

三月一五日 北京（天安門広場、円明園遺址、頤和園）から飛行機で上海へ 上海泊

三月一六日 上海（豫園、上海博物館） 上海泊

三月一七日 上海から大阪へ

今回の旅行の前半では、曲阜・濟南を中心とする山東省の史蹟、中でも石刻美術を多く見学したが、これらは、一般の旅行では難しいものだけに、有意義であった。とくに、濟南においては、山東大学考古学系主任の蔡鳳書氏に、同行解説をしていただくことができ、充実したものとなった。さらに、北京では、一昨年本学を訪問された北京大学の王曉秋氏と同行の教員が懇談し、旧交を暖める機会を得るなど、交流の実をあげることもできた。全体的には、いささかハードスケジュールとなり、一部体調をくずすものもいたが、大過なく全日程を終了し、無事帰国した。なお、一九九〇年春の中国研修旅行は、江南の各地を対象として行われることが決定している。

◇会員動向

○森田憲司氏（東洋前近代史担当）は、東洋史ゼミの学生を中心とした有志の台湾見学旅行に同行し、一九八九年二月二〇日から二月二七日までの間、台北・台南・鹿港の各地を訪れ、併せて史料の収集を行った。参加した学生諸君も、故宮博物院などを見学した他、大陸とは異なる現地の風土に触れ、とくに台南の街の風情と寺廟には強い印象を受けたようであった。

○松山 宏氏（日本中世史担当）は、八月十一日から二〇日までルーマニアとブルガリアへ旅行し、ブカレスト郊外にある各時代の民家を集めた村落博物館にはことに強い印象をうけた。

昭和六十三年度史学科卒業論文

〔日本史〕

六～七世紀の対外関係

栗田 紀一

—蘇我氏の対外政策について—

神祇官の成立とその運営について

稲木 武治

皇親政治についての再検討

上野 竜男

古代天皇の葬送儀礼について

上村 初美

古事記と日本書紀の成立について

大塚 理加

—三ツ見説話に関する一考察—

律令政下の僧尼について

大野 祥子

写経所経師についての検討

金田真紀子

古代における皇親について

塩田のぞみ

古代女帝の一考察

鈴木 理紗

—元明・元正天皇の即位事情—

朝儀についての一考察

竹内 郁子

藏人所の再検討

竹内由加里

橘奈良麻呂の変における皇親について

田中 克征

平城京に関する一考察

田村 充

行基の活動に関する一試論

出口 誠

健児に就いて

中根 伸

養老律令の成立について

橋本 稻穂

皇位継承に関する一考察

原島 麻実

—アマツヒツギ試論—

奈良時代の僧綱

星原 文子

八色の姓について

松田 崇

齋官の一考察

水島由加里

いわゆる「不改常典」について

望月ひろ子

古代皇親考

若田美佐子

軍団について

☆ ☆ ☆

大門 政洋

飢饉における中世民衆の抵抗

徳政一揆

高垣 直史
武本 勝

中世における猿楽能の変遷について

相山真知子

—民衆の行動を中心に—
島津氏の家臣団統制の問題点

中野 弘行

平安末期の奥六郡について

青木 和夫

—梅北一揆を中心に—
織田信長の鉄砲隊について

西尾寿美子

—安倍氏勢力の成立過程と崩壊—
地方における禪宗五山派の活動

荒瀬 聡

—茶道を通じて—
豊臣秀吉の文化的側面

西田誠一朗

世阿彌と佐渡ヶ島

石塚 聰子

中世民衆の精神生活

内山 敏明

南北朝期小早川氏の発展過程

拝野 直樹

—年齢に対する考え方—
日蓮を支えた檀越

大島 一成

上杉謙信の家臣団統制とその軍事力
治承の内乱について

林 政一
宮山 修

—四大檀越を中心に—

播磨赤松氏の確立

大塚 和人

—清盛のクーデターと福原遷都—
北条氏の鎌倉政権獲得の過程

森 真由美

—発展の要素—

甲州武田氏の領土拡大とその治政

柿本 憲久

戦国武將武田氏の家臣団
鎌倉幕府裁判判決の有効性

山崎 圭
山田 幹裕

—「妙法寺記」を中心に—

戦国大名の領国支配

河原 隆

鎌倉時代の悪党について
奥州平泉の滅亡

山本 知宏
龍満城三夫

—毛利氏の場合—

戦国大名今川氏と三河国

木暮まゆみ

—頼朝と義経の対立—
戦国時代における城郭とその惣構えについて

岡 昌秀

中世武家社会における女性の地位

塩山 真子

—伊丹城・有岡城を中心に—
大友宗麟のキリスト教保護について

佐藤 裕作

親鸞の妻帯について

鈴木 光代

☆ ☆ ☆

江戸期における博物学の発達について

阿部 顕介

「会津農書」からみた東北地方の農村と農業について

本田 友康

尾張藩のキリシタン禁制と農民統制

石根 篤

近世の婚姻より見た「家」

村山真由美

近世前期に於ける平戸松浦氏の農民支配について

井原 康政

江戸幕府成立期における代官頭の歴史的役割

持田 茂彦

近世後期の長州藩における専売制の推移

小川 智幸

近世中期の道路改修事業と木食正禪の史的考察

安田真紀子

近世中期における家訓の成立と家業の展開

辛山 信次

豊臣政権期における島津氏の軍役と兵農分離

横田 裕之

幕末長州藩における奇兵隊についての一考察

菊川 辰雄

近世前期に於ける茶道の歴史的役割

横野 直樹

近世中後期の京都における施行

古瀬 文人

近世中・後期における「食観」と食生活について

吉岡 京子

近世中期における彦根藩の藩政改革

北川 清司

前田利常による初期加賀藩の藩政

吉田 善幸

江戸時代における農業の発展と農業技術

黒瀧 儀之

近世の民衆運動「おかげまいり」について

吉田 善幸

近世初期における大和支配の展開

竹内 けい

の考察

次木 啓子

近世大坂における庶民の生活と道について

津田佳代子

☆ ☆ ☆

井上 守

江戸時代における旅と観光業の発達

鶴木 淳

☆ ☆ ☆

井上 守

岡山藩確立期に於ける文教政策

中村 勝行

☆ ☆ ☆

井上 守

近世中・後期の藤堂藩領における無足人の役割について

樋口 陽

☆ ☆ ☆

井上 守

近世京都の町共同体に於ける家屋敷所持をめぐって

福田 祐子

☆ ☆ ☆

岡西 健雄

都市庶民の生活と享保改革

藤原 和也

☆ ☆ ☆

岡本 欣也

— 地代・店賃を中心として —

藤原 和也

☆ ☆ ☆

小田 卓司

— 琵琶湖疏水計画を中心に —

藤原 和也

☆ ☆ ☆

小田 卓司

— 近代の商港としての岸和田港の成立過程

藤原 和也

☆ ☆ ☆

小田 卓司

旧枚岡市における伸線業についての一考察

佐藤 晋也

松原市及びその周辺地域における溜池についての一考察

〔東洋史〕
中国における刑罰の推移について

稻室 史子

相生の播磨造船所と鈴木商店

竹内 幹枝

地方自治の展開

西田 佳生

中国近世の都市について

上垣 雅行

岐阜県における郡制遅延の理由

服部 聡

唐・五代・宋における京師の治安

下村幸比古

大阪市における戦後都市整備事業の展開

浜 公彦

隋・唐代における対外文化交流について

鈴木恵理子

近畿型地域産業の展開と鉄道

藤田 祥保

朝鮮三国との冊封体制

田村 正顕

堺市と大阪市の相関関係

藤原 節子

三国呉の対外政策について

樋口 彰子

戦後農民運動と農地改革

真鍋 幸世

元代泉州における回教徒の活動について

矢田 一美

香川県を中心として

水谷香代子

宋代における香葉

渡辺 雅子

滋賀県東浅郡における治水事業の歴史的考察

巳波亜紀子

行々清代、北京における民衆生活の一端

尾上 葉子

大阪特別市制問題とそれによる堺市との合併問題について

村上久実子

菓子屋ギルドを中心として

芝 香寿人

熊本における蘭業の近代的展開

桃木 雅代

太平天国の思想に関する一考察

竹島 陽子

愛知県における明治期の鉄道計画

森岡 良和

宗教と農民戦争をめぐる一考察

多田 律子

信参鉄道計画と碧海銀行に関する一考察

吉村 元宏

五州事件を中心として

南京大虐殺の真偽について

虐殺の構造

「吉野川分水」和歌山との争点

奈良県香芝町二上村の事例

近代における地場産業の展開

多田 律子

銀問題と幣制改革

清末における婦女解放運動について

李鴻章の外交における立場

—「琉球問題」を中心にして—

百日維新

—清末改革運動の挫折—

〔西洋史〕

共和政ローマの貴族層について

—権力構造を中心に—

カルタゴの復興

—第一次ポエニ戦争後の15年間について—

☆ ☆ ☆

西欧中世における都市と農村

西欧中世における都市とその生活

ロベスピエールと恐怖政治

ミュンヘン協定以後の国際関係

—ポーランドを中心に—

三大宗教的騎士団の形成

15〜16世紀の民衆の精神文化について

—ヒエロニムス・ボスの絵画を通じて—

キリスト教スペインの国土回復運動

中嶋 孝子

久富 直子

松井 直樹

綿田 良作

大浦 靖子

星野 景子

井上 貴晴

内海 雅弘

大野 朋子

角 洋介

権藤小夜子

西村 弥生

日合まりこ

イギリスにおける魔女狩りについて

☆ ☆ ☆

メキシコ壁画運動

—反アカミズムと表現主義の視点から—

先スペイン期のメソアメリカ

ナポレオン伝説について

—その社会的基盤についての一考察—

戦間期における日本の石油資源問題

ナチス政権下における社会・経済と「生存圏」

冷戦について

—トルーマン・ドクトリンを中心に—

スペイン内戦と列強との関係

日米両国におけるレッドパージに関する

一考察

ロシア革命の原因について

—第一次革命に至る農民問題—

ハプスブルク帝国の民族問題

—「アウスグライヒ」をめぐる諸民族の情勢—

イギリスにおけるロマン主義文学の2類型

ロスチャイルド

オーストリアと合邦問題

八木 国夫

新井 人志

大塚千栄子

小幡 勉

勝又 秀行

白井 英吉

千住 清子

豊島 宏実

中田 久樹

中村亜砂子

福岡 有希

福家 正博

村上 克彦

黒田 浩司

受贈雜誌及び図書（自一九八八年十一月）

民具マンスリー（神奈川県立文化研究所）第二一
巻八〇一、二号、第二二巻第一〇四号

東洋史苑（龍谷大学東洋史学研究会）第三二、三三、三三三

西洋史論叢（早稲田大学西洋史研究会）第一〇号

立命館史学（立命館史学会）第九、一〇号

群馬県立文書館収蔵文書目録6 吾妻郡吾妻町伊能家文書

漢学研究通訊（漢学研究センター）第七巻第三、四期 第八巻

第一、二期

(1) 群馬県立文書館

史艸（日本女子大学史学研究会）第二九、三〇号

紀尾井史学（上智大学大学院史学専攻院生会）第八号

歴史（東北史学会）第七一〜三輯

西洋史学報（広島大学西洋史学研究会）第一五号

研究紀要（滋賀大学経済学部附属史料館）第二二二

東北学院大学論集 歴史学・地理学 第二〇号

花園史学（花園大学史学会）第九、一〇号

愛知大学文学論叢（愛知大学文学会）第八九〜九一輯

史苑（立教大学史学会）第四八巻第二号 第四九巻一、二号

鹿大史学（鹿児島大学法文学部）第三六号

横浜市立大学論叢 第三九巻第二・三号

鷹陵史学（仏教大学歴史研究所）第一四号

東京大学文学部文化交流研究施設研究紀要 第八号

二号

アジア・アフリカ言語文化研究（東京外国語大学アジア・

横浜商大論集（横浜商科大学学術研究会）第二二巻第一、

アフリカ言語文化研究所）第三六、三七号

寧楽史苑（奈良女子大学史学会）第三四号

弘前大学国史研究（弘前大学国史研究会）第八五、八六号

龍谷史壇（龍谷大学史学会）第九二、九三、四号

千葉史学（千葉歴史学会）第一三〜一五号

お茶の水史学（お茶の水女子大学読史会）第三二号

東洋文化学科年報（追手門学院大学東洋文化学科）第三号

就実女子大学史学論集 第三号

上智史学（上智大学史学会）第三三三

一 一号

橘史学（京都橘女子大学歴史学会）第三、四号

日本文化史研究（帝塚山短期大学日本文化史学会）第一〇、

アジア研究所紀要（亜細亜大学アジア研究所）第一五号
漢民族をとりまく世界（学習院大学東洋文化研究所調査研
究報告二五）

政治文化に関する計量比較研究（学習院大学東洋文化研究

所調査報告二二）

創価大学人文論集 創刊号

東海史学（東海大学史学会）第二三号

三井文庫論叢 第二二号

広島大学東洋史研究室報告 第一〇、一一号

京都橘女子大学研究紀要 第一五号

岩手史学研究（岩手史学会）第七二号

富士論叢（富士短期大学学術研究会）第三三卷第二号、第

三四卷第一号

史泉（関西大学史学・地理学会）第六九、七〇号

史学（三田史学会）第五八卷第二号

栃木史学（国学院大学栃木短期大学史学会）第三号

日本常民文化紀要（成城大学大学院文学研究科）第一四輯

岡崎市史研究（岡崎市史編纂委員会）第一一号

聖心女子大学論叢 第七二、七三集

アカデミア（南山大学）人文・社会科学編 第四九号

東洋における自然観の比較研究 金谷治編（追手門学院大
学文学部東洋文化学科）

中国水利史研究（中国水利史研究会）第一八号

史観（早稻田大学史学会）第二二〇、二二一冊

豊後国都甲荘二（大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料

館）

兵庫県の歴史（兵庫県史編纂専門委員会）第二五号

法政史学（法政大学史学会）第四一号

専修史学（専修大学歴史学会）第二一号

法政史論（法政大学大学院日本史学会）第一四一、一六号

史友（青山学院大学史学会）第二一号

四天王寺国際仏教大学紀要 文学部二一号

スペイン史研究（スペイン史学会）第五号

秋大史学（秋田大学史学会）第三五号

年報中世史研究（中世史研究会）第一四号

京都市歴史資料館紀要 第五、六号

新潟史学（新潟史学会）第二二、二三号

日本モンゴル学会紀要 第一九号

日本思想史研究（東北大学文学部日本思想史学研究室）第

二一号

日本仏教史学（日本仏教史学会）第二三号

住友史料館報 第一九号

資料館紀要（京都府立総合資料館）第一七号

帝京史学（帝京大学史学会）第四号

創設十周年記念皇学館大学史料編纂所論集

群馬県行政文書件名目録 第三集 明治期学務編Ⅰ（群馬
県立文書館）

双文（群馬県立文書館）第六号

土浦市立博物館紀要 第一号

史叢（日本大学史学会）第四二号

米沢史学（山形女子短期大学米沢史学会）第五号

歴史人類（筑波大学歴史・人類学系）第一七号

白山史学（東洋大学白山史学会）第二五号

東洋大学文学部紀要 第四二集 史学科篇一四

神戸大学史学年報（神戸大学史学研究会）第四号

地域研究いたみ（伊丹市立博物館）第一八号

ふびと（三重大学歴史研究会）第四四号

日本研究（国際日本文化研究センター）第一集

二松（二松学舎大学院文学研究科）3

二松学舎論集 第三二号

二松学舎大学東洋学研究所集刊 第一九集

宇佐風土記の丘歴史民俗資料館年報 一九八八

キリスト教史学（キリスト教史学会）第四二集

海南史学（高知海南史学会）第二七号

二松学舎大学人文論叢 第四〇、四一輯

北大史学（北大史学会）第二九号

史窓（京都女子大学史学会）第四六号

徳川林政史研究所研究紀要 第二三号

高円史学（高円史学会）第五号

明代史研究 第一七号

東北学院大学東北文化研究所紀要 第二一号

帝京大学山梨文化財研究所研究報告 第一集

御影史学論集（御影史学研究会）第一四号

企画展示 中世の武家文書（国立歴史民俗博物館）

吉備地方文化研究（就実女子大学吉備地方文化研究所）

第二号

宇佐家伝承 続古伝が語る古代史 宇佐公康著